

大麦管理情報 (第8号)

令和7年5月1日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 平均気温

4月中旬の平均気温は14.6℃（平年差+2.3℃）と平年に比べかなり高かった。

4月下旬の平均気温は14.5℃（同+0.3℃）と平年並であった。

(2) 降水量

4月中旬の降水量は60.5mm（平年比163%）と平年に比べ多かった。

4月下旬の降水量は10.0mm（同22%）と平年に比べかなり少なかった。

(3) 全天日射量

4月中旬の平均全天日射量は16.0MJ/m²/日（平年比101%）と平年並であった。

4月下旬の平均全天日射量は18.5MJ/m²/日（同109%）と平年に比べ多かった。

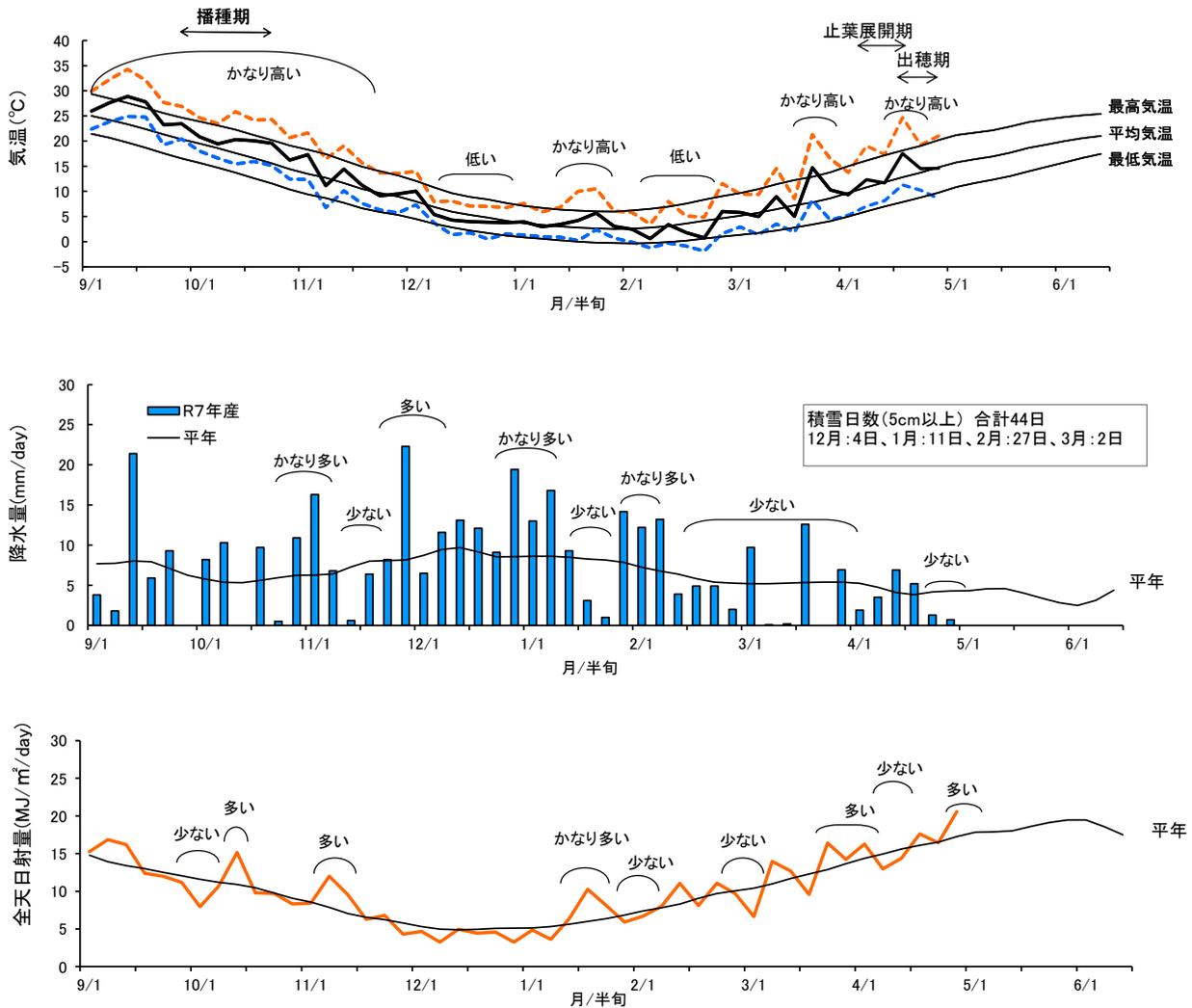


図1 令和7年産大麦生育期間の気象経過 (富山地方気象台)

2 生育概況

- (1) 平年に比べ、草丈（平年比98%）及び㎡当たり茎数（同比98%）は並、葉色はやや濃くなっている（同差+1.1）。また、穂長は平年並（同差-0.1cm）となっている（表1）。
- (2) 出穂期は4月20日と平年に比べ5日遅くなった。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果（5月1日）

（播種様式：ドリル）

年産	播種日 (月/日)	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数		葉色 (SPAD)	穂長 (cm)
				(本/株)	(本/㎡)		
R7年産	10/2	169	82.8	2.5	429	47.1	4.5
R6年産	10/7	167	83.2	2.6	415	44.5	4.6
平年	10/6	175	84.9	2.5	440	46.0	4.6

注) 調査ほ場数：10、平年はH27～R6年産の平均。

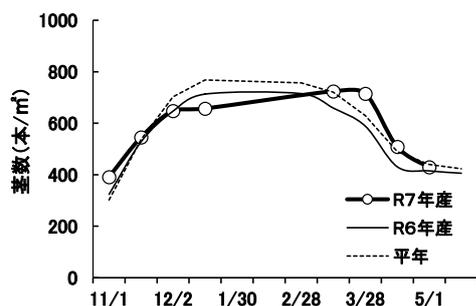


図2 茎数の推移

注) 平年はH27～R6年産の平均

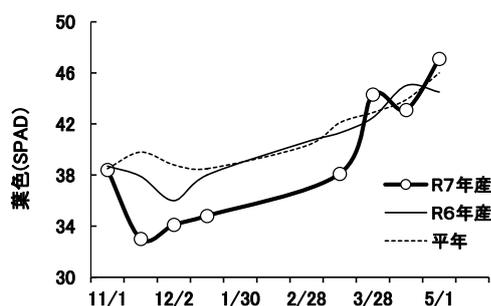


図3 葉色の推移

注) 平年はH27～R6年産の平均

表2 生育ステージ（5月1日現在）

年産	止葉展開期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)
R7年産	4/10 (4/6～4/19)	4/20 (4/17～27)	—
R6年産	4/2 (3/30～4/6)	4/12 (4/10～16)	5/26 (5/23～29)
平年	4/4	4/15	5/30

注1) () 内は、調査結果の幅を示す。

注2) 平年はH27～R6年産の平均値

3 当面の技術対策

- ① カラスノエンドウ種子等の異物混入防止（刈取り前の抜取り）
- ② 赤かび病の防除と被害粒の混入防止
- ③ 適期刈取

(1) 排水対策

登熟期間の停滞水は登熟不良につながることから、用水路や隣接田から漏水しないように、水口や畦畔を点検する。また、排水溝の手直しや、深く掘り下げた排水口への連結を徹底し、湿害を確実に回避する（写真1）。



写真1 隣接田から漏水しているほ場

(2) カラスノエンドウ種子等の異物混入防止

- ・カラスノエンドウの種子やハマダイコンの莢が大麥の収穫物に混入すると収穫後の選別が困難である。また、実需者からは異物混入防止の徹底が強く求められている（写真2・3）。
- ・ほ場内に侵入してからの除去は労力を要するため、ほ場周辺でカラスノエンドウを見かけたら速やかな除去に努めるとともに、**ほ場内に侵入した場合は、刈取り前に確実に抜き取る。**



写真2 カラスノエンドウと種子



写真3 ハマダイコンと種子

(3) 赤かび病の防除と被害粒の混入防止の徹底

- ・検査規格における赤かび粒の混入限度は0.0%と厳しい基準となっているため、赤かび病の防除を徹底する。
- ・積雪期間等により地域やほ場による生育のバラつきが大きいことから、**必ずほ場ごとの出穂状況を確認し、最も効果的な防除時期の穂揃期（開花始め：出穂3～5日後頃）とその7日後の2回防除を徹底する。**
- ・**刈取り直前に必ずほ場を巡回し、赤かび病等の発生の有無を確認する。**
- ・**赤かび病等の発生がみられるほ場は、別扱い**にして、被害粒の発生していないほ場の後に刈取るとともに、荷受時のチェックを徹底する。

(4) 適切な刈取作業の実施

- ・県平均の出穂期は4月20日と平年に比べ5日遅く、今後平年並（H27～R6）の気温で推移すると、成熟期は6月2日頃（平年+3日）と見込まれる（表3）。
- ・積雪期間等により出穂期に差がみられたため、**地域やほ場ごとに成熟期を確認し、コンバインや乾燥調製施設の清掃等の準備を計画的に行う。**
- ・登熟期間中にフェーン等が発生した場合は成熟期が早くなることから、コンバインや乾燥調製施設の準備を早めに行う。

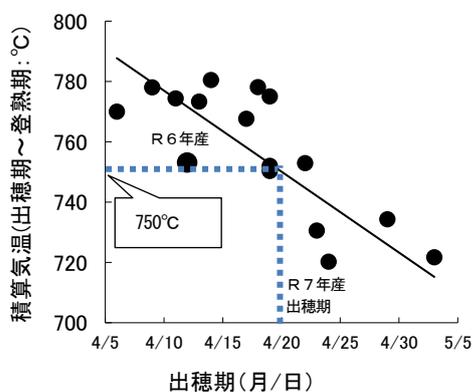


図4 出穂期と登熟期までの積算温度の関係

注) H20～R6年産生育観測ほの平均値
積算温度は富山地方気象台の日平均気温を使用

表3 令和7年産成熟期の予測

今後の気温 ^{注1)}	成熟期予測 ^{注2)} (出穂期：4月20日の場合)
平年並	6月2日頃
平年+1℃	5月31日頃

注1) 出穂期以降の気温は日平均気温（富山地方気象台）のH27～R6平均値を使用

注2) 積算気温750℃となった月日

- ・穂軸、茎葉が完全に黄化し、子実水分30%以下となったほ場から適期に刈取り、刈遅れないように注意する。
- ・早刈りは粒の充実が不十分で空洞粒となり易い。また、刈遅れは収穫ロス的重要因素となるとともに、降雨により色沢が低下するため、穂首が折れる前に刈り終わる。
- ・ほ場内の熟期の差が大きい場合は、空洞粒の発生が懸念されるので別扱いとする。
- ・刈取り後は、直ちに（4時間以内）乾燥機に張り込む。

（5）適正な調製作業の徹底

- ・刈取り前に乾燥調製施設の清掃・点検を徹底するとともに、選別の徹底により、異物や被害粒を確実に除去する（写真4）。
- ・整粒歩合80%以上に上げるため、2.3mmの篩目を使用し適正流量を守り、細麦等を除去する。
- ・容積重690g/L以上を確保するため、脱芒等を丁寧に行い精選する。



プラスチック片



ゴム片

写真4 異物の混入事例